

第19回 日本語学習者による

「日本語発表会」開催！



第19回日本語発表会が1月28日(日)に町田市民フォーラム3階ホールにて開催されました。前回から4年振りの開催ということもあり準備段階から手探りでスタートしました。

今回の開催も町田日本語の会、まちだ地域国際交流協会(MIFA)との共催です。発表者は11か国から17名の年齢も国も日本語のレベルも全員が違う学習者です。発表は前半に初級学習者、後半に中上級学習者の順に行われました。二人の司会者の進行もスムーズでステージと会場は終始温かい雰囲気になっていました。一生懸命に日本語で「テーマ」を伝える姿勢や家族愛あふれるスピーチ、故郷を愛する強い気持ち、自分の国をみんなに知ってほしい思いなど会場の全員が感銘を受けました。多岐にわたるテーマの内容も充実していました。民族楽器のダルシマーの演奏動画やアカペラの歌もあって5分間の発表が短く感じられた人も多かったと思います。

学習者は発表会で日本語を話すことの自信といろいろな国の人の考え方を知る機会になったと思います。また、私たちも日本語を学びたいと思う人に支援者として何ができるかを改めて考える機会を与えられた気がします。

今後も日本語発表会を通じて多様な視点で日本の文化や習慣、自国の文化や日本との違いなど相互理解が深められ国際交流の輪が広がることを願っています。

日本語発表会実行委員 野澤 秀行



ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

🌐 <https://www.machida-kokusai.jp>
✉ E-mail: info@machida-kokusai.jp



中学生職場体験

1月16日(火)と18日(木)の二日間、町田市立南成瀬中学校2年生の3名が国際交流センターで職場体験をしました。日本語教室の体験などを中心に国際交流センターの理解をしていただきました。3名の方の和光大学ポプリホール鶴川での体験を含めた感想を次の4つの質問で書いていただきました。(原文をそのままのせました。)

- ① 職場体験をする前から町田国際交流センターを知っていましたか？
- ② 職場体験先に町田国際交流センターを選んだ理由を教えてください。
- ③ 体験した仕事の中で一番楽しかったこと、おもしろかったことは何ですか？
- ④ 職場体験してみてどうでしたか？初めて知ったことなど感想を自由に書いてください。

F.R.さん

- ① 知っていた。家族から聞いていた。
- ② 親が利用したことがあったそうで名前だけは知っていました。そこで興味が湧いたので選びました。
- ③ 日本語教室で支援者が学習者の方々と話をしたり、和光大学ポプリホール鶴川の舞台裏を見たりと、普段経験しないようなことが一番楽しかったです。
- ④ 初めは不安もありましたが、丁寧に対応してくださったこともあり、楽しく取り組むことができました。3日間、ありがとうございました。

H.K.さん

- ① 知らなかった
- ② 専門という分野だけ選べて、その後は先生が職場体験先を決めました。ここに決まって、このいろんなことを調べていくと外国人居住者の人との交流や支援やイベントの運営がでてきて、個人的に英語や海外のことに元々興味があったので、ここに決まって嬉しかったです。
- ③ 日本語教室の中で、日本語だけで本当に相手に伝わるのかなと最初は思っていたけど、身の回りのものを指したりイラストを使ったりの工夫で伝わった時が楽しかったです。和光大学ポプリホール鶴川では施設の裏側をまわられたことが楽しかったです。
- ④ 日本語教室では支援者と学習者が1:1~3人くらいでやっているのので一人一人の様子がしっかり見れて教えやすいと思いました。使うのは簡単でも教えるとなると難しくて、学校の先生ってすごいなと改めて思いました。また、よく質問を学習者の方にしていて会話を交わすことが大切なんだと思いました。3日間ありがとうございました。

O.K.さん

- ① 知らなかった。
- ② どのような施設が知らなかったけど、興味があったから。せっかくだから新しいことに挑戦したかったから。
- ③ 日本語教室で支援者と学習者の手伝いをしたこと。
- ④ どのような仕事をするのか未知数だったため、不安も期待もありました。日本語は教えるのが難しいですね。貴重な経験をどうもありがとうございました。

地域日本語コーディネーター 荒明 美奈子



編集後記

春が来た。こよみの上では3月は春の仲間だ。朝晩はまだ寒い日もありますが、もうすぐサクラの開花の季節。そして河津桜、寒緋桜など、早咲きのサクラの便りがニュースにも。私たち日本人のなかには、染井吉野が開花してはじめて春だなと感じる人も多いかと思います。今年もサクラの花の写真をいっぱい撮りましょう。

そしてボランティアの皆様も、きたるべき新年度への希望と取り組み方を多々企画し、それぞれに活動の準備をすすめておられると思います。新年度を新たな気持ちでというと、元旦に気分を一新したじゃないかとおっしゃる向きもあると思いますが、年初といわず、その月のはじめに、または週のはじめに、またはその日の始まりにと、常に新しい気持ちをリセットしながら活動をつづけていきたいと思います。

子ども教室 クッキーづくり

子ども教室で日本語を学んでいる子どもたちが、12月16日（土）に調理室でクッキーづくりに挑戦しました。桜美林大学の学生ボランティアが中心になって準備した「お楽しみ会」の企画です。参加した16人の子どもたちは、大学生、市民ボランティア、保護者の方々に手伝ってもらいながら、グループに分かれて思い思いのクッキーを手作りしました。

5年生と6年生の子どもたちは、朝早めにやってきて、三角巾とエプロン姿でクッキーの生地づくりから始めました。小麦粉や砂糖、バター、卵など、材料の分量を慎重にはかって、慣れない手つきで混ぜていきます。4年生以下の子どもたちは、クッキー生地ができあがったところから参加して、クッキーの型抜きをします。まあるく広げたやわらかい生地には、星、ハート、ネコ、クマ、トナカイ、等々、それぞれ好きな型を押し当てて、さまざまな形に仕上げていきます。少しだけ粘土遊びに似ているためか子どもたちは楽しそう。でも、真剣そのものだったかと思うと、うまく行かなくて口を尖らせたり。くるくるという表情を見せます。

クッキーが焼き上がるまでの時間は、学生ボランティアに紙芝居を読んでもらいながら待っていました。しばらくすると、ふんわりと甘いクッキーの香りが漂ってきました。焼き上がったクッキーに、チョコペンで模様やイラストを描いたら、はい、世界にひとつだけのオリジナル・クッキーの出来上がり。試食タイムには、あちこちから「おいしい!」「たのしかった!」の声が聞こえてきました。

参加した全員がほくほくの笑顔になる、素晴らしいひとときとなりました。

子ども教室部会 池上 久美子

